



霞ヶ関中だより



＜学校教育目標＞自主の誇りをもち、未来を拓く力を持った生徒の育成
＜10月の生活のめあて＞前期を振り返り、後期の目標を立て頑張ろう

10月号 令和7年10月1日（水）

仲間とともに

校長 守岡 信一

9月17日から新人体育大会市予選会が行われ、各会場で霞中生が活躍しました。私も各会場をまわり、生徒や保護者の皆さんと一緒に応援しました。それぞれの部がこれまでの努力の成果を発揮しようと全力で戦っていました。特に、最後まで諦めない姿や仲間とともに「本気で」取り組んでいる姿に感動しました。

新チームになっておよそ4か月ですが、2年生がよく部活動を引っ張ってくれています。1年生も心身がたくましく成長してきたように思います。私は結果そのものよりも、応援している生徒も含め、全員で声を出し、今できる力を発揮してくれたことがとても嬉しく思いました。多くの成果があった大会となったのは、3年生が部活動引退までの間に示してくれたことが伝統となり、1、2年生の中で生きているからだと思います。良い伝統を引き継ぎこれからも霞中生一人一人が、これからますます輝くことを心から願っています。

「打って反省、打たれて感謝」この言葉は私が訪れた剣道の会場で、ある先生がお話をされていたものです。私は剣道の経験が無く、この言葉がとても不思議に思ったので剣道について少し調べてみました。剣道のいわゆる一本は「有効打突」というのだそうです。皆さんも見たことがあると思いますが、竹刀（しな）を相手の面、小手、胴に正確に当てなければなりません。そして武士道精神、つまり試合や稽古を通し心身の鍛錬をすることで、人としてよりよく成長することを目的としているところが他のスポーツと少し違うところかもしれません。そのため、一本を取るには単に竹刀で相手の面や胴を打っただけではだめで、そこに“残心”があるかないかが求められるという非常に奥の深いスポーツです。（生徒の皆さんは残心については自分で調べてみてください） この「打って反省、打たれて感謝」とは、生徒のみなさんはどのように考えますか。いつでもよいので私に自分の考えをぜひ聞かせてください。

さて、現在、3（金）の市駅伝大会に向け、駅伝部が校庭で汗を流しています。とても立派な練習態度です。さらに、7日（火）、8日（水）の中間テスト後からは合唱コンクール（11/12）に向けた練習が始まります。これまでの努力の成果を発揮し、きっと心に残る行事にしてくれるものと今からとても楽しみにしています。